

「たくさんの方に支えられた学校生活」

250617

私のこれまでの学生生活はとても特殊であり、たくさんの方々を支えられて過ごしてきました。6歳の時、小学校に入学する少し前から、ドラマ「マルモのおきて」の撮影が始まり、入学早々学校に行くことができない日々から、学校生活がスタートすることになりました。そんな中、僕が授業を受けられないことでみんなに後れを取らないよう、出られなかった分の宿題やプリントを母や友人に預けてくれた担任の先生のお陰で勉強への嫌悪感や同級生に後れる劣等感を抱かずに過ごすことができ、学校は嫌いな場所ではなく、僕にとっての「楽しい場所」になっていきました。その後も、その時々担任の先生、周りの先生方が支えて下さり、学校生活と仕事の両立をうまくやることができました。両立の裏には、学校の先生だけではなく、仕事の休み時間につきっきりで勉強に付き合ってくれた両親や共演者の俳優さん、女優さん方のお陰も大きくあります。勉強面だけでなく、運動会や学習発表会、遠足、社会見学、宿泊行事など、行事を大切にしようということで、マネージャーさんもスケジュールを調整してくれて基本的に当日は行けることがほとんどでした。しかし、リハーサルや説明会などに出られないことは多く、周りには迷惑をかけましたが、それでも行った時に精一杯楽しめる環境を用意してくれていたお陰で、良い思い出がたくさん残っています。小学校の運動会では、四年生から三年間応援団に所属し、六年生の時には副団長も経験しました。中学時代は三年連続で合唱コンクールの指揮者で、優秀指揮者賞を受賞したことも幸せな思い出です。「休むことが多いからだめ」と言われていたらなかった思い出なので、嫌な顔をせず進捗を教えてくれた先生や同級生には本当に感謝しています。芸能活動をしているからと腫れ物扱いすることなく、学校では普通の子どもでいられるようにしてくれていたことで、今の自分があります。本気で叱られたことも何度もありました。小学校の頃、友達とふざけすぎて担任の先生に叱られたこと、中学時代、担任の先生や野球部の顧問の先生に叱られたこと、はっきりと覚えています。とくに野球部の三年間は、厳しく、辛いことも多かったですが、今思うと良い思い出ばかりであり、見放さずに叱ってくれたことに感謝しかありません。もしも、叱ってもらえていなかったら、「学校がただの楽しいだけの場所」になってしまっていたと思います。学校の中でも厳しさを教えてもらったことで、仕事場でも私生活でも精一杯頑張るという環境で過ごすことができ、今の自分があると思っています。今の時代、教師が子どもを叱ることがタブーのような雰囲気は5年前、10年前よりも加速しているように感じます。叱ることが大切だと言いたいわけではないですが、叱ってくれた先生に感謝している卒業生がここにいることを全国の先生方には誇りに思ってもらいたいです。これまでに出会ってくれた先生方や周りの人に感謝しながら活躍する姿をみてもらえるよう、日々精進していきます。

(俳優：鈴木 福)